

(事務局素案)

## 水素戦略会議について

### 1 戦略会議の進め方

- 官民が一堂に会して議論し、普及に向けた戦略の共有と機運醸成を図る

(中心テーマ)

- 東京オリンピック・パラリンピックでの活用に向けた環境整備
- 2030年までを見据えた水素利活用の可能性と課題

### 2 スケジュール (予定)

- 5月16日 第一回戦略会議
  - ・ オリンピック・パラリンピックでの活用のイメージ、燃料電池車普及やインフラ整備の課題等について民間事業者からプレゼン
- 7月4日 第二回戦略会議
  - ・ 東京における水素社会の2030年の将来像について
- 7月30日 第三回戦略会議
  - ・ オリンピック・パラリンピックでの活用に向けた提言について
- 11月 第四回戦略会議 (中間) ⇒ **東京都長期ビジョン(仮称)に反映**
  - ・ オリンピック・パラリンピックでの活用に向けた環境整備のロードマップについて
  - ・ 2030年ごろの水素利活用への課題整理について
- 2月 第五回戦略会議 (最終)



## 具体的で実効性のある施策を構築

- オリンピック・パラリンピックでの活用に向けた環境整備のロードマップを作成
- 2030年までを見据えた水素エネルギーの利用方針

## 水素エネルギーの意義及び課題について

### 【意義】

- エネルギー供給源の多様化
- 環境負荷の低減 (利用段階でCO<sub>2</sub>を排出しない)
- 産業の裾野も広く経済波及効果が高い
- 非常時対応の観点からも有効

### 【課題】

- 1 水素の安全性の社会的受容性の向上
- 2 燃料電池自動車・バスの普及
  - (1) 販売価格が高額 (現時点で1,000万円を切る程度)
  - (2) 販売車種の拡大 (各社1種類、バスは路線バス)
- 3 水素ステーションの整備促進
  - 都心部での用地確保の困難性や諸外国に比べて割高な整備費
  - 整備費: 日本5~6億円、欧米1~2億円
  - ※都内整備予定: 3か所 (都心三区に計画なし)
- 4 法規制
  - (1) 商業地域等における水素保有量に上限 (建築基準法施行令)
  - (2) 公道との保安距離がガソリンスタンドより長い (一般高圧ガス保安規則)
- 5 人材の確保
  - 水素ステーション等において水素業務に従事する人材の確保
- 6 燃料電池の普及拡大
  - 家庭用燃料電池の更なる普及拡大と業務・産業用燃料電池の市場投入
- 7 オリンピック・パラリンピックでの水素利活用の方法
  - 選手村での利用やシャトルバス等への活用
- 8 2030年までを見据えた将来の水素利活用と課題
  - 火力発電への利用 等

### 【その他】

- CO<sub>2</sub>フリーの水素の活用
- 安価な水素の安定供給体制の構築 等